

# 教養講座 地元学を考える

第百一五〇回「地元学を考ふる」  
(二〇一六年六月十八日開催)

## 「聖書の世界の 大和民族の使命」

講師 飛鳥昭雄さん

「聖書の世界の大和民族の使命」と題して作家の飛鳥昭雄講師によって講演された。大和民族のルーツ、漢字は日本人が造った、邪馬台国、秦始皇帝出生の謎、徐福伝説、そして黒船来航の真の目的等々、バラエティに富んだその博学にはただ呆れるばかりであった。

中でも漢字が聖書から造られている話は大変興味深かった。義、様、巫(女)、本、などの漢字は古代ユダヤ人が造り、すべてキリストを表している。虎の巻(聖書のこと)を知っている人はなるほど!と納得ですね。そのユダヤ人が日本に渡来しているから漢字は日本人が造ったと言えると。虎の巻をご存知ない方は少し解りづらかったかと思うので補足すると、義は羊と我で「我は良き羊飼」(新約聖書ヨハネ福音書十章)から造られた漢字と解りますね。様は明治、大正時代までは様と書いた、木と羊と永(遠)と

木は十字架のこと「人々はイエスを木に架けて殺した」(使徒行伝十章)。羊はイエス、永(遠)は「それは御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ三章)。この永遠の命から造られている。

本様

巫(女)を説明する前に、まず、イエスは神の子、御子である。何故、巫女と女に成っているのか?これは奥義中の奥義、ヨハネ黙示録一章十六節を研究するとイエスは天照大神なのだ。これを発見したのは飛鳥昭雄氏である。まさにコロソプスの卵、聖書学者でもなかなか、これには気がつかない。西洋キリスト教徒の神学ではこれを認めないが、原始キリスト教では、天照大神はイエスの日本名である。

もう少し解りやすく説明すると、俗にキリスト教でいう三位一体、父、御子、聖霊。本当は三柱の神が正しいのだが、この三神は古事記の造化三神である天御中主神、高御産巢日神、神皇産日神と同神なのだ。イエスはこの高御産巢日神に

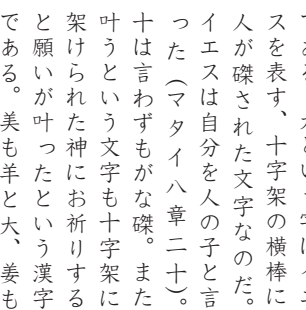
あたる、高木神ともいう。この神が天照と同神である。万葉集巻一の四五に高照(たかてらす)が登場する、他の巻にも載っています。三神たける氏も山城国風土記に、高照の神が載っていると言う。播州姫路城にほど近い所に高照(たかてる)神社がある。この高は高御産巢日神のこと、照は天照である。イエス||高御産巢日神||高照||天照大神なのだ。



天照大神は女神だということは何故、女なのだ?ということになるが、イエスは神の子、神である。神は変幻自在、男にでも女にでもなる。

現に磔刑後、三日目に蘇ってもいる(マタイ二十八章七)。天使も中性である、男でも女でもない(マタイ福音書二十二章)。ヨハネ黙示録ではイエスは女になつて(黙示録十二章十七)。また、旧約聖書の箴言もイエスは女として記されている。

イエスは新約時代から登場したのではと思われるが、天地創造の前から存在していたことがコロサイ人一章十五、十七に載っている。人間の形をとって、いわゆる受肉したのが新約時代ということ。巫という字は十字架に磔されたイエスの両脇に犯罪者二人が磔になっている福音書記事からの文字なのだ。絵画や映画でその場面はよく見ますね。本という字は、大と十である、大という字はイエスを表す、十字架の横棒に人が磔された文字なのだ。イエスは自分を人の子と言った(マタイ八章二十)。



十は言わずもがな磔。また叶うという文字も十字架に架けられた神にお祈りする願いが叶ったという漢字である。美も羊と大、姜も羊と女、やはりイエスのこと。裸は果物の葉で造った衣で隠した、禁止は二本の木で神は示された、これらはアダムとイブのエデンの園での罪の結果や創世記から造られた漢字。取り上げると枚挙に暇がありません。



最後に面白いことを最近見つけたので紹介しましょう。石女と書いて「産まづめ」と読む。この石はイワのこと。石見国(島根県)をイワミと読む。イワとはイエスのことである(第二サムエル記二十二章、マタイ十六章) イエス(女、天照)は結婚はせずに独身で亡くなった、子は産まなかつた。だから石女(産まづめ)。カツパーラ(謎解き、秘儀)である。紙面の都合上、もう筆を置かなければならないが飛鳥氏の講演は大変歴史度が高く、造詣の深い他の人には真似のできない講演であった。感謝!

(小谷展宏 播州姫路市)



第百一五〇回の感想は兵庫県から参加してくださった小谷さんに寄稿していただきました。ありがとうございます。

# 教養講座 地元学を考える

第百五十二回予告

## 福島から世界へ。大七酒造の挑戦

<講師> 太田英晴さん (大七酒造株式会社 代表取締役社長)

<日時> 2016年8月20日(土) 13:30~15:00

<会場> まちなか夢工房 2階 <参加費> 500円

### <講演内容>

福島県は全国新酒鑑評会において最高賞の金賞受賞数4年連続日本一という全国有数の酒どころ。二本松の大七酒造・十代目で、福島県酒造組合二本松支部・支部長も務められる太田英晴さんをお招きします。日本酒の最も伝統的な醸造技術「生もと造り」や、独自に開発した超扁平精米技術をはじめとする、大七酒造の独創的な酒造りと、世界市場への挑戦の軌跡を語っていただきます。

\*参加人数把握の為、地元学講座各回ごとに出欠のご連絡をいただければ幸いです。(tel 024-524-2230 または fax 024-525-8285 までお願いいたします)